

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要(事業所記入)】			
事業所番号	3570101448		
法人名	社会福祉法人暁会		
事業所名	グループホーム フェニックスの里		
所在地	下関市大字小野64-1		
自己評価作成日	平成22年4月26日	評価結果市町受理日	平成22年9月28日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成22年5月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大幅な人事異動があり、手探りで業務の中、積極的なコミュニケーションを取る事と、入居者と一緒に楽しめる様なレクリエーションを充実させたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

清潔感あふれる環境整備で、掘炬燵式の畳の間、ソファ、広い廊下などは、利用者の居場所や雨の日の気分転換の空間となっています。緊急時における支援体制や看護師の派遣、急な外出時の車両の提供など、法人からのバックアップ体制に安心感があります。利用者の自立度が高く、般若心経や民謡、歌を唄っている和やかな雰囲気の中でゆったりと過ごしておられます。また、利用者の好みや旬の食材を取り入れて、食事への関心を高める取り組みをされています。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の定例会議(スタッフ会議)において全員に周知徹底するように促している。	「その人らしくゆったりと共に支え合える生活を支援します」という理念をホーム内に掲示し、毎月のスタッフ会議で確認合っている。地域密着型サービスの意義をふまえた理念とはなっていない。	・地域密着型サービスとしての理念の作成
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	交流出来るように心掛けているが、現状では出来ていない。	昨年までは、生きいきサロンへの参加や散歩、近隣の人の来訪、野菜の差し入れなどが行われていたが、今年になってからは、近隣の人々との交流の機会が少なくなっている。野菜の差し入れは現在も行われている。	・地域との付き合いの工夫
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	殆んど出来ていない。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	取り組む以前の段階。 (前回の内容を理解できている職員が不在)	管理者不在のため、代行である主任が職員からの自己評価に関する意見を聞き、取りまとめている。全職員での取り組みにはなっていない。	・評価の意義の理解と全職員での取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かせるよう努めている。	運営推進会議は定期開催で利用者の状況、サービス内容や取り組み状況、外部評価の報告等を行っている。自治会長の意見で避難訓練については訓練参加の話し合いをしている。	・メンバーの拡大の検討
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	出来ていない。	事業所の課題、申請等については、法人本部を通して市と協力しながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。地域包括支援センターの所長、職員とは運営推進会議を通して情報交換、相談などで協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	可能な限り取り組んでいる。	法人の身体拘束委員会に参加し、マニュアルを整備して、職員は身体拘束をしないケアに努めている。玄関の施錠をしている時間が長く、利用者が自由に出入りできる状態が少ない。	・自由な暮らしを支援するための見守り体制の工夫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法に関し学ぶ機会を持つ事へは考慮しているが実践できていないが、虐待に関する事は口頭にて伝え、皆で実践している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	出来ていない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	図れていると思う。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	出来ていない。	苦情相談窓口及び担当者、外部機関を明示しており、苦情処理の手続きも定めている。家族の訪問時に、利用者の担当者が直接意見や要望などを聞くようにし、その内容を運営に反映させるよう心がけている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	聞く機会を設けられておらず、反映できていない。	法人の役職員会議等の機会が設けられているが、職員の意見や提案が十分に反映されるまでには至っていない。	・職員の意見を聞く機会の工夫
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限りの事には努めているが、現状では無理があり、何も出来ていない。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来ていない。	法人内の教育研修会への参加や、内部研修、働きながらの研修の機会は設けられているが、外部研修への参加の機会が少なくなっている。	・外部研修参加の工夫
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出来ていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来ている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実践出来ている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ほぼ、出来ていると思う。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築けていると思う。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築けていると思う。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来ていない。	利用者の生活歴や利用前の環境等の把握が十分ではなく、馴染みの人や場との関係継続の支援に努めているとはいえない。	これまでの地域社会との関係の把握と継続の支援
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ほぼ、出来ていると思う。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	出来ていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけの事はしているつもりだが定かではない。	利用者の思いや要望は、日々の関わりの中や利用者の話す言葉に気をつけて、介護記録に記載し把握に努めている。	
25		○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	あまり出来ていないと思う。		
26		○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ会議の際、担当者より話を聞き、職員全体で把握出来るようにしている。		
27	(12)	○ チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	話し合いをし、反映出来るように努めている。	全職員で毎月1回定例会議を開催し、一人ひとりの日々の状況やケアの気づき、主治医の往診時の意見、面会時や電話連絡時の家族からの意向等を参考にして介護計画を作成している。	
28		○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かすよう努めている。		
29		○ 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組めていないと思う。		
30		○ 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出来ていないように思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援していけるように思う。	事業所の協力医の他に本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。基本的には家族同行の受診となっており、受診結果の情報の共有をしている。毎月2回の往診の他、緊急時や不安な時にも気軽に受診出来る支援をしており、法人の看護師による健康チェック等も行っている。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	出来ているように思う		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	出来ていると思う。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる		利用開始時に、重度化した場合等のことについて家族と話し合っているが、職員間での話し合いや情報の共有は十分とはいえない。	・重度化や終末期に向けた方針の職員間での話し合いの機会と情報の共有
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	文書面だけでの説明となっており、訓練は出来ていない。実践力が身に付いているかどうかは定かではない。	事故防止マニュアルを作成し、日常生活で起こりうる脱水症等の事故に対する研修を実施している。全職員対象の応急手当、初期対応の定期的な訓練は行なわれていない。	・応急手当、初期対応の定期的な訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	築けるよう法人に対し議案として提出し検討してもらえよう申し添えている。	災害マニュアルを作成し、地域消防分団の協力を得て、年2回の昼、夜の避難訓練や消火器の使い方など利用者と一緒にやっている。運営推進会議においても住民の理解を得るよう働きかけている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員に周知徹底を促し、皆で出来ていると思う。	入浴時や排泄時のプライバシーについて研修を実施し、言葉かけや対応の配慮に努めている。日常的な言葉づかいや態度については職員間で気をつけている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来ている所とそうでない所がはっきりと区別されている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あまり出来ておらず、支援していけていないように思う。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り事はしていると思う。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	充分といえるかどうか定かではないが概ね実践できていると思う。	その日のメニューは食材を見ながら利用者と相談して決めている。調理、盛り付け、茶碗洗い等も一緒に行い、差し入れの野菜なども使って三食調理して、利用者と職員は同じ食卓で一緒に食事を楽しんでいる。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェックシートを使用し、現状を把握するように努め、支援していけるようにしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後とは言えないが、就寝前には必ず行なっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個人差があるが、出来る限りの事は本人に任せ、行なってもらっている。自立困難な方には介助するか事前に声掛けする等した支援をしている。	職員は日々のケアの中で一人ひとりの排泄サインの把握に努め、排泄の自立を促すために時間を見はかりながら声をかけトイレ誘導をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来る範囲内にて取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個別対応という事はしていないが、入浴時には、個人のペースでゆったりしてもらっている。	入浴の時間帯は15時から17時で一人ひとり希望する時間にゆっくりと入浴を楽しめるよう支援している。入浴を嫌がる場合には声かけなど、職員がいろいろと工夫しながら支援している。清拭、シャワー浴の対応もしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけの事はしていると思う。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援と症状変化については職員間でしっかりと確認出来ていると思うが、薬の内容に関しては、理解しきれていないと思う。		
50	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る範囲において支援していけると思う。	体操、習字、生け花、トランプ等、日常生活の中で掃除、洗濯物を干したり、たたんだり、茶碗洗いなど、一人ひとりの出来る力を活かしたり、気持ちを引き出し、楽しみや張り合いとなるような場面づくりを行っている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	実践出来ていないが、家族の方が直接本人を外出出来るようにされている。	天気の良い日には散歩に出かけたり、食材を買いにスーパーへ行っている。また、ドライブ(四季の花見、園芸センター、動物園など)や外食などの計画を立て気分転換を図ると共に、家族も利用者と一緒に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している			
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、時と場合により支援している。 手紙は、本人に任せており、職員、施設からは抑制していない。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけの事はしているが、現状では維持するのが精一杯で新しい試みは出来ない。	季節の花が活けてあり、飾りのある共用空間は、広々とゆったりとして明るく、仲の良い利用者同士が談笑されるソファや椅子が用意されており、居場所となっている。また、調理の音や匂いなど生活感が感じられる配慮や、自然の風や季節の移ろいが感じられる明るい清潔な環境が整っている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スタッフ会議等で話し合いをし、出来る限りの事は行なっている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	現状維持ではあるが、出来るだけの事は行なっている。	入居前に持ち込む物については家族と話し合っており、タンス、仏壇、時計、化粧品、ぬいぐるみ等、できるだけ利用者の使い慣れた好みの物が置かれ、安心して過ごせるよう心がけている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	改善したい所もあるが、現状では困難な為、今のままを維持している。安全面では、その都度考え、工夫している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム フェニックスの里

作成日：平成 22年 4月 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1		・人事異動が有り、事業所内の業務内容について、職員全体が把握しきれていない。又、過去の業務内容にて就業しているため、現職数では無理、無茶、無駄が有るように思う。	・業務内容を把握すると同時に改善策を講じる。	・マニュアルの読みあわせと見直し ・職員個々の視点を換え、それぞれが提案し話し合う。	随時
2		・休退職者が生じ、現場における職員数の減少。	・人員の補充・確保	・法人に対して継続し、現場の状況・状態を報告し、要望を伝えていく。 ・職員が補充された際、現職員の新職員への対応について全員一致できる様にする。	随時
3		・すべき事がほとんどできていない。→他方面との連携・交流。緊急時の対応研修・勉強会など。	・参加可能な事へは積極的に参加する。	・資料の取り寄せ・作成・マニュアルの見直しなど	随時
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。